

さわらび

2019. 10. 28 No. 18 文責：大塚

『学校新聞づくりコンクール』に

応募する作品が完成して、先日提出しました。

4人でしめ切りぎりぎりまで書いて、応募票に「作ろうと思った理由」「工夫した点」「新聞づくりを通して学んだこと」を書き込んで仕上げました。

1枚目は、1学期に取り組んだ『閉校記念誌』に載せるための卒業生インタビューについてです。花奈さんが担当して書いています。協力していただいた9名の卒業生のみなさんの思いは、とてもこのスペースに書ききれものではありませんが、当時の修学旅行のこと、友だちのこと、部活動のこと、思い出に残る先生のこと等々が載せられています。

また、卒業生インタビューについては、今年度後半に第2回目も実施予定です。本校の卒業生の皆様、ご依頼に行きますので、ぜひご協力下さい。

2枚目は、2年生3人が担当です。中学生4人の頑張りや地域のつながりが伝わってくる運動会の記事、保護者・地域の皆さんとともに取り組んでいる全校環境整備、10月に実施した防災参観日についてです。すべての記事に共通しているのは、地域とのつながりや1400名あまりの卒業生の思いを受け継いでの「最後の在校生」としての取組です。こうした1つ1つの取組を通して、つながりはぬくもりを実感しつつ成長している4人を見て、たくましさを感じるこのごろです。



■ウルトラマラソンのランナーからのメッセージ②

ご準備ありがとうございました。お名前も確認できました。お名前も確認できました。お名前も確認できました。

応援ありがとう！
10年前に60才で参加しました。
1/2マラソン、50歳の記念として
走力はいわど来ました。
来年もくるからみんな頑張れよ！
神奈川県民

■ここに載せる詩を選んでいたとき、知り合いの方から、金子みすゞの詩を載せた年賀状を頂いたことを思い出しました。今回の詩は、「星とたんぽぽ」です。おとなも子どもも多忙な日々ですが、「物の本質を見抜く目」は大事にしたいことです。

■山口県長門市にある金子みすゞ記念館。高知県西部からは、瀬戸大橋やしまなみ街道を通っても、松山からフェリーで柳井港に渡っても少し遠いところですが、いつか訪れたい場所です。

どんな学校が 子どもたちの学力を伸ばすのか

ほんとうに当たり前の話ですが、私のいつも思っていることを少し述べたいと思います。このテーマでの取組はたくさんあると思いますが、私は以下の2つが柱だと考えています。

(1) 子どもたちが安心して過ごせる学級・学校

とても当たり前のことです。相手を思いやり助け合ったり、ある時はトラブルを一緒に解決して乗り越えていく中で、自分も友だちも大事にできる学級になること。「教室はまちがうところだ」という詩がありますが、自分の意見や答えを発言して間違っても笑われない。1人1人の個性が大事にされる……。まさに、そういう学級・学校こそ、子どもたちの学力が伸びる環境だと考えています。本校は小規模校ですが、そういう学級・学校を基礎として、これからも地域と繋がる中で、子どもたち1人1人が自信をつけていけるように取り組んでいきます。

(2) 教員の授業力の向上

もう1つは授業です。学校では毎日6時間の授業があります。授業は教員と生徒の両者で作り上げるものですが、これは私たち教員の仕事の中心となる部分です。子どもたちにとっては一生に1回だけの1時間1時間の授業、それをよりよくしていくことが学力向上には欠かせません。

これからの教育で育成を目指す資質・能力の3つの柱は、「学びに向かう人間性等」「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」です。

本校でも各教科で取り組んでいます。まだまだ十分とは言えない部分もあります。これからもより研修を深めて、新しい時代を生きる子どもたちに、しっかり学力をつけていきたいと思っています。



星とたんぽぽ

金子みすゞ

青いお空の底ふかく、

海の小石のそのやうに、

夜がくるまで沈んでる、

昼のお星は眼にみえぬ。

見えぬけれども

あるんだよ、

見えぬけれども

あるんだよ。

散つてすがれたたんぽぽの、

瓦のすきに、だァまつて、

春のくるまでかくれてる、

つよいその根は眼に見えぬ。

見えぬけれども

あるんだよ、

見えぬけれども

あるんだよ。